

第1回 夕張市美術館の今後の在り方検討委員会 意見概要

2012.5.29（火）15：00－16：40 市庁舎4階第1・2会議室

教育長あいさつ

本日は本当にお忙しい中、私どものお願いに、快く委員をお引き受けいただきまして、またご出席をいただきまして本当にありがとうございます。

後ほど、この間の経過に関しましては事務局より詳細をご報告させていただきますが、去る、2月23日未明、美術館の屋根が崩落し、皆さまご承知のような状況になったものがあります。私共もこの間、収蔵作品あるいは備品等の搬出、これらを公共施設へ移し管理をすると同時に、4月から作品の整理の作業に入っており、引き続き美術館の一階部分も整理にもう少し時間がかかるといった状況であります。

これまで果たしてきた美術館の役割・機能を今後どのような形でどう推進していくのか、市民の文化財産あるいは文化遺産ともいべきこの収蔵作品をどう中・長期的な展望を押しえながら芸術・文化振興に生かしていくのかを考えながら取り進めて参りたいと考えています。充分にご協議、ご検討いただきながらこれからの美術館の在り方、その方向性についてご答申をいただければと考えております。

当市は財政再生計画下にあります。芸術文化を愛する多くの市民の皆さんの、創作意欲が削がれないようにという思いも持っているところであり、それぞれの団体や個人がこれまで積み上げてきた創作活動を、ぜひ意欲の低下なく続けていっていただけるような方向性もまた同時にご検討いただければと思います。

これから大変ご苦勞をおかけしますが、どうぞよろしく願いいたします。

意見交換（概要）

美術館の再建について

- ・諮問の中の検討の視点に、「再建について」とあるが、再建してくれるつもりがあってのことか。この時勢で再建は無理だと判断していたが。→真っ新たな状態にいる。今後どうすべきかという視点で検討いただきたい。
- ・美術館機能や役割の再建とも捉えられる。いろいろな方法論を検討していきたい。
- ・常時「そこ」へ行けば作品が見られるという場所が必要。数点ずつでも構わないが、ある期間だけ展示し、それ以外の時期には何も見られないのではだめだ。
- ・夕張の情勢を考えると今後の新築は到底無理な話。展示する場所をつくることは大切。
- ・行くと見られる場所があった方が良い。
- ・収蔵作品の展示場所となると見学者のトイレも必要になるので、学校以外に可能なところがあるのか疑問。今後公民館が美術館のような設備になることは、機能の中身が違うの

で無理だろうか。

- ・中学校は歴史教育資料室にもなっているが、やはり見学となると生徒にも気兼ねしてしまう。問題をクリアーにしていき空き教室を使用できるようになればよい。
- ・30年前に常時展示できる美術館としての専門の展示室ができたが、それ以前はそのような場所はなかった。その後お金をかけて改装した美術館がオープンしたが、今の時代、財政破たんしていなくてもあの頃のような施設の建設は無理。
- ・可能な限り、現状で、人的労力をだすことで展示できる場所を探すことから始まっているのでは。
- ・美術品が「そこ」に行けば見られるといっても、やはりそこには誰か中心的な一人が責任を持って進めていかなければいけないのでは。
- ・行けば作品が見られるという場所、気軽に見られる場所が必要。
- ・美術館のような場所をどう市民のために提供できるか。

収蔵作品の管理と活用について

- ・収蔵作品の管理は誰がするのかという問題。
- ・収蔵作品を全道の美術館などで展示してもらうようなことは可能か。夕張に息づく作品が皆さんの目に触れる機会になれば作品が活かされると思う。
- ・夕張が持っている大切な財産の活用として、他の美術館で展示される機会があると良い。さらに、期間を決めて特別コーナーを設けて展示をすることで、他の美術館で見ていただいた方が、それ以外の作品を見に、また夕張に来ていただけるようになるかもしれない。
- ・可能な限り 500 点のうちの一割でも、20・30 点でも良い、夕張の歴史を彷彿させる常時展示できるスペースを確保したい。使わなくなった校舎ではなく、現在も人がいて、生きている場所。
- ・管理の面から見てもしまっておくだけでなく、作品は人の目に触れることで作品が生き返る。
- ・発表や展示の場所を見つけてやっていくにしても、教育委員会で仕事の合間にやれることではない。
- ・ハコモノも大事だが、無理な以上、せっかくの財産であるので、学校で子どもたちが鑑賞できる機会を提供したり、老人クラブなどでお見せする機会をつくる良い方法を考える機会かとも思う。
- ・雪月花展や秋の文化祭の際に一緒に収蔵作品を展示するのはどうか。
- ・収蔵作品の展示場所といっても、やはり閉校になった学校では人はこないのでは。
- ・美術品を通じて、南から市内の展示場所を巡ってもらうといった発想があっても良いのでは。

- ・この会議室くらいの大きさで人が動いている場所を探すのは難しいが、もう少し少ないスペースで考えればあるのでは。
- ・これまでの美術館の歴史はあるけれどもそれは大事なものとして置いておいて、今は、ゼロから、原点から始めるのだと考え、たくさん並べるというのではなく、週末の金土日だけはラリーのように、あちらこちらで2・3点の作品が見られるという形で構わないと思う。展示することによって管理もされる。
- ・小さいアイデアを積み重ねることがスタートかもしれない。「〇月の週末はうちで作品が見られる」といった個人のボランティアが横につながっていくような。
- ・スポーツセンターにもスペースがあるからどうかとの話も前にあったが、ボールがとんでくるといった心配の声もあった。
- ・固定観念があるから美術館という「場」があることに偏りがちだが、テーマを持たせた数点を数か所に展示して楽しむ考え方もあるのかと感じた。
- ・セキュリティーやスペースなどの問題もでてくるが準公共的施設などでの移動展示や市民団体の企画展にあわせて収蔵作品を展示するなど。

市民の作品の展示・発表機会

- ・自身の作品の展示については公民館の使用を考えるしかない。施設を使いやすくしてもらえると良い。
- ・活動は今まで通りしたい、といっても美術館はなくなった。今まで通りにはいかないことを理解しなくては。
- ・創作・芸術といっても要するに趣味、もっと言えば道楽だが、特に美術活動をやっている方は個人的にかなりの時間と労力を投資している。これまで教育委員会や各団体の企画展の機会にあわせて各自がお金をかけて創作してきたが、それだけの力が創作活動にはある。これからも仲間の意欲を高めてくれるような原動力となるようになれば良い。
- ・会場だけでなく展覧会や発表の場を整理するという考えも必要。
- ・市民の創作活動の意欲の継続を踏まえた方向性を考えたい。

その他

- ・具体的な話になるが、美術館に関しての予算はどうなるのか。→指定管理後、市の予算はゼロ。今後の方向性によって必要な経費を予算にどう反映させていくかは行政側の今後の論議になっていく。
- ・できることから始めていけば、また良いアイデアがでてくるのでは。行政におんぶにだっこではなく市民が心をつなげてできることは自力でやっていくのも一つの文化になる。

・費用の問題を考えると難しいが、それはそれとして、こうした方が良いという夢の部分を考えてから現実とのすり合わせをした方が良い。

・非常に重たい話ではあるが、考える我々も楽しめるような、発想を豊かにする必要がある。

・市町村立の美術館は道内でもそんなにない。私たちはある意味幸せな環境だった。おかげで夕張は文化芸術の薫り高いまちになった。屋根崩落は残念だったが、お金をかけずにこれからの美術館機能をどう残していくかを考える良い機会にもなった。

・お金がないなら汗を流し知恵を出し合おう。

・全国的に報道され、4月24日の夕刊に美術館関係職員協議会の会合で近代美術館の関係者だった方が夕張市美術館のことを取り上げてくれている。「～幸いなことに作品はほぼ無事の予定。現在は市内の公共施設に一時避難しているという。今後の保管体制の整備や新たな活用を模索することになるだろうが、地域や美術関係者のみならず、ぜひ、全国有志の知恵と協力を結集したい～」この問題は夕張だけで解決するのは難しい。知恵だけは広く拝借できるので、率直に困っていることを発信すれば意外なところから陽が射すこともあるのでは。我々も知恵をだしながら、一方で手助けも求めながら。そしてまた次の世代に作品を生かしていく。夕張の炭鉱を撮った作品はまさに、すでに全国区。次世代へ残すべき作品。

・会議も回を重ねていけば具体的な知恵がでてくる。

・市民の創作意欲や輝きを持たせ、未来の子どもたちに芸術や郷土を愛する心をどう伝えていくかといった問題。

※ご意見の内容は大きな「くくり（網掛けしたタイトル別）」で分けましたが、ご意見の内容によってはいくつかのくりに連動したものもあります。ご了承ください。

●第2回検討委員会日程：平成24年6月15日（金）午後3時～ 市内公共施設